SONY

4-249-411-**04**(1)

スーパーオーディオCD プレーヤー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

SUPER AUDIO CD　COMPACT disc DIGITAL AUDIO TEXT　i.LINK S200

SCD-XA9000ES

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。
（チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、ノイズが入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

音量を調節するときは

スーパーオーディオCDはCDと比べ、可聴帯域を超える高域成分の出力が可能です。不用意に音量を上げてしまうと、音が聞こえないにもかかわらず、ノイズが発生したりアンプの保護回路が働いたり、スピーカーを破損したりするおそれがあります。
再生を始める前には音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



結露について

部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあります。本機を使わないときは、ディスクを取り出しておいてください。
結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約1時間放置し、再度電源を入れ直してからお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

本体を持ち運ぶときは

- 入っているディスクは、必ず取り出しておいてください。
- 必ずディスクトレイを閉めた状態にしておいてください。

ディスクを入れたときは

本体から発信音や機械音が聞こえることがあります。
これは、各ディスクに合わせて本体内部のサーボが自動調節を行ったときに出す音です。
また、そったディスクを入れたときに、再生中に自動調節機能が働き、本体から機械音が聞こえることがあります。

CD-R/CD-RW再生時のご注意

CD-R/CD-RWドライブで録音されたディスクには、傷や汚れ、また録音状態や録音機の特性等が原因で、再生できないものがあります。
また、すべての録音終了時に録音の終わりを記録するファイナライズ作業をしていないディスクは再生できません。

ご注意

スーパーオーディオCDプレーヤーは、ディスクをローディングしてから再生が始まるまでの時間が、一般的なCDプレーヤーより長くかかることがありますが、故障ではありません。
これは、ディスクの種類の判別、サーボ調整、著作権保護の確認などを、再生するディスクごとに本体内部で自動的に行っているためです。

この取扱説明書の使いかた

- 「準備」（4～9ページ）をご覧になって接続などの準備を済ませてください。
- この取扱説明書では、主に本体での操作のしかたを説明しています。
- リモコンでは、本体と同じ表示のボタンを使って、同様に操作できます。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。

記号	意味
	この操作はリモコンにあるボタンでのみ可能です。
	知っていると便利な情報です。

主な特長

スーパーオーディオCDとは

- スーパーオーディオCDとは、現行のCDなどに用いられているPCM方式とは異なるDSD（ダイレクトストリームデジタル）方式で記録された、新しい高音質オーディオディスクの規格です。DSD方式は、CDの64倍にあたるサンプリング周波数で、1ビットの量子化の採用により、現行のCDをはるかに超える広い再生帯域と可聴帯域における十分なダイナミックレンジを確保し、原音をより忠実に再現します。
- スーパーオーディオCDには、2チャンネルステレオの他に、最大6つの独立したチャンネルを持つ「マルチチャンネル」のディスクも用意されています。スーパーオーディオCDのマルチチャンネルは、現在AVシステム等で主流となっている、いわゆる5.1チャンネルと同等のスピーカー配置を採用しています。

本機の特長

本機は、スーパーオーディオ2チャンネルとマルチチャンネル、および現行のCDの再生に対応しており、以下のような特長があります。

- スーパーオーディオCDと現行CDのディスク信号の読み取りに、各々の専用波長のレーザーを持つ、ディスクリートデュアルレーザー光学ピックアップを搭載。
- 先進のサーボメカニズムにより、迅速なトラックアクセスを実現。
- マルチ・チャンネル・マネジメント機能により、スピーカーの配置やサイズに合せた、マルチチャンネルの再生環境の設定が可能。
- スーパーオーディオD／Aコンバーターや、ダイレクトデジタルシンクシステムの採用で、より高音質の再生を実現。
- ディスクタイトルやトラックタイトルなど、スーパーオーディオCD／CDディスクのTEXT表示に対応。
- i.LINKを使ったデジタル伝送が可能。これまで6本の接続コードが必要だった接続が、i.LINKケーブル1本のみでつなぐことができ、より高音質でお楽しみいただけます。
- DTLAのコピープロテクション技術（Revision1.2）に対応。

その他

- スーパーオーディオCDでは、最大255曲までのトラック／インデックス番号の収録が可能になりました。SCD-XA9000ESはこのフォーマットに対応しています。
- 通常のソニー製CDプレーヤーと同時に本機を使用する場合に、CDプレーヤーと本機の両方の操作が可能なリモコンを付属しています。

目次

準備

この章では、お手持ちのオーディオ機器と本機の接続のしかたを説明します。
接続する前に必ずお読みください。

接続を始める前に

付属品を確認する

本機とともに、次の付属品が同梱されています。

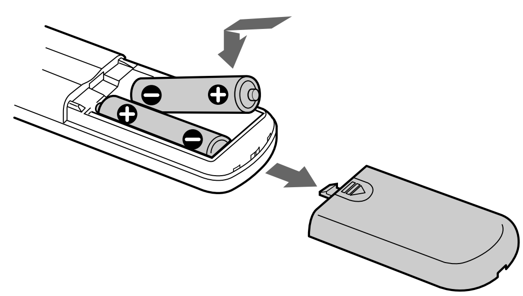
- オーディオ接続コード
  ピンプラグ × 2（赤／白）⟷ピンプラグ × 2（赤／白）（3）
  ピンプラグ × 1（黒）⟷ピンプラグ × 1（黒）（2）
- i.LINKケーブル（1）
- 電源コード（1）
- 電源プラグアダプター（1）
- リモコン（1）
- 単3形乾電池（2）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- 安全のために（1）
- 保証書（1）

以上の付属品がそろっていないときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

リモコンに電池を入れる

付属の乾電池2個の⊕と⊖と、電池入れ内部の表示を合わせて入れる。

乾電池の寿命は約6か月です。
残りが少なくなると、リモコンで操作できる距離が短くなります。これを目安にして、2個とも新しい乾電池に交換します。



ご注意
乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。

— ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
— 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
— 乾電池は充電しないでください。
— 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
— 液もれしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

接続する

スーパーオーディオCDプレーヤーと他の機器を接続します。接続するときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないとノイズの原因になります。
接続するときは、機器の電源を必ず切ってください。

ANALOG 5.1CH OUT端子を使ってマルチチャンネルアンプや5.1CH入力対応のAVアンプと接続すると、マルチチャンネル再生を楽しむことができます。
通常のアンプと接続する場合は、ANALOG 2CH OUT端子を使って接続します。

ANALOG 5.1CH OUT端子に接続する

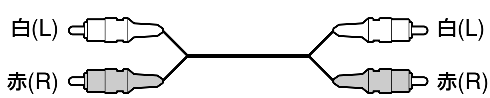
オーディオ接続コードを使います。本機の各端子（FRONT L/R、SURROUND L/R、CENTER、SUB WOOFER）をそれぞれに対応したアンプの端子と接続します。
FRONT L/R、SURROUND L/R端子の接続には付属のオーディオ接続コード（赤／白）を使用します。白（L）端子には白プラグを、赤（R）端子には赤プラグをつなぎます。
CENTER、SUB WOOFER端子の接続には付属のオーディオ接続コード（黒）を使用します。

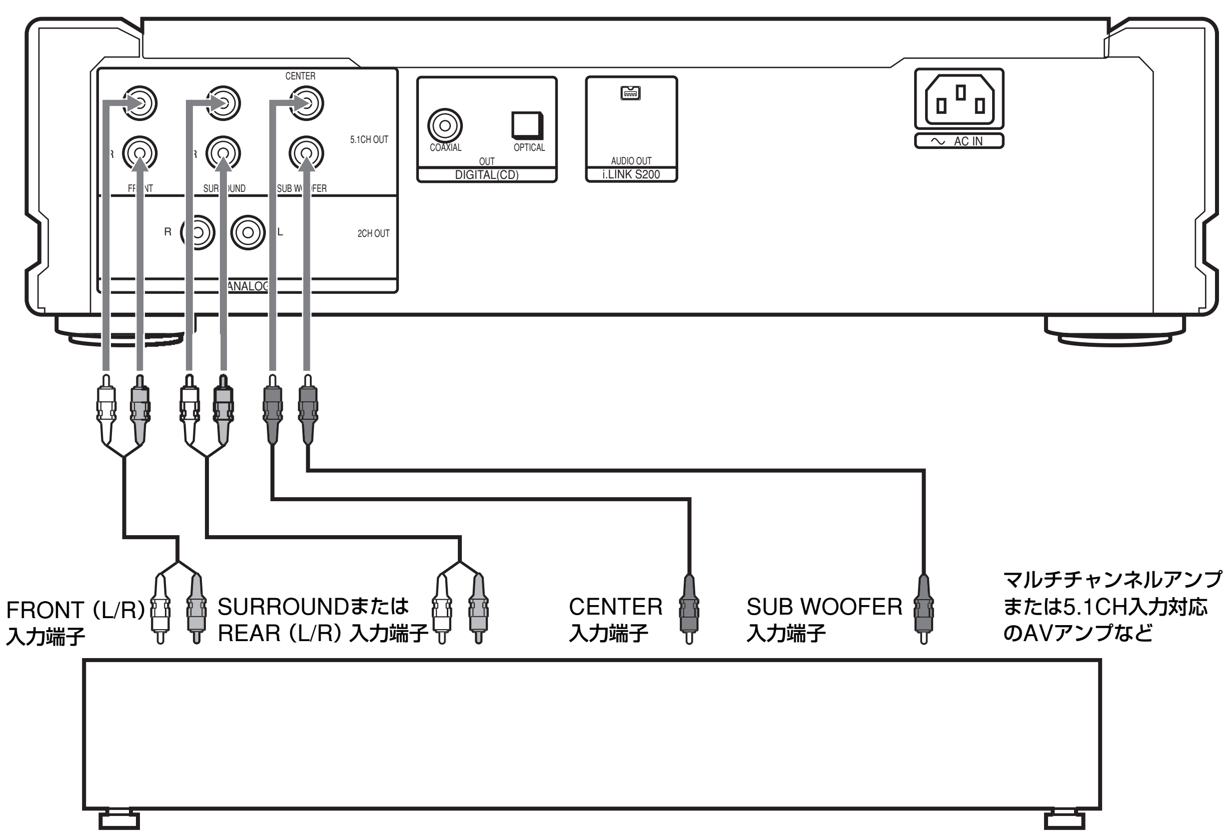
CENTER、SUB WOOFER端子の接続
オーディオ接続コード（黒）（付属）



ご注意
- マルチチャンネルアンプやAVアンプと接続する場合は、アンプのCD（SACD）入力に切り換えても音が出るようにするため、ANALOG 5.1CH OUT端子のみではなく、ANALOG 2CH OUT端子も接続してください。
- CDおよび2チャンネルスーパーオーディオCDディスクを再生中、5.1CH OUTのFRONT（L、R）端子には、2CH OUT（L、R）と同じ信号が出力されますが、本機のトライ・パワード・D/Aコンバーター・システムにより、2CH OUT端子からは、より高音質な信号が出力されます（6、9ページ）。
- マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスクを再生中、2CH OUT（L、R）端子には、5.1CH OUTのFRONT（L、R）と同じ信号が出力されます。（マルチチャンネルの2チャンネルダウンミックス信号は出力されません。）
- マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスクは、5.1CH（チャンネル）のほかに、5CH、4CH、3CH等のチャンネル数のディスクもあります。これらのチャンネル数のディスク再生時は、5.1CH OUT端子のすべての端子から音が出るとは限りません。詳しくはマルチチャンネルのソフト（ディスク）のジャケットや添付の説明書をご覧ください。

FRONT L/R、SURROUND L/R端子の接続
オーディオ接続コード（赤／白）（付属）

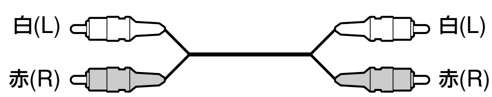




ANALOG 2CH OUT端子に接続する

オーディオ接続コードを使います。
アンプのCD（またはSACD）入力端子に接続します。白（L）端子には白プラグを、赤（R）端子には赤プラグをつなぎます。

オーディオ接続コード（付属）

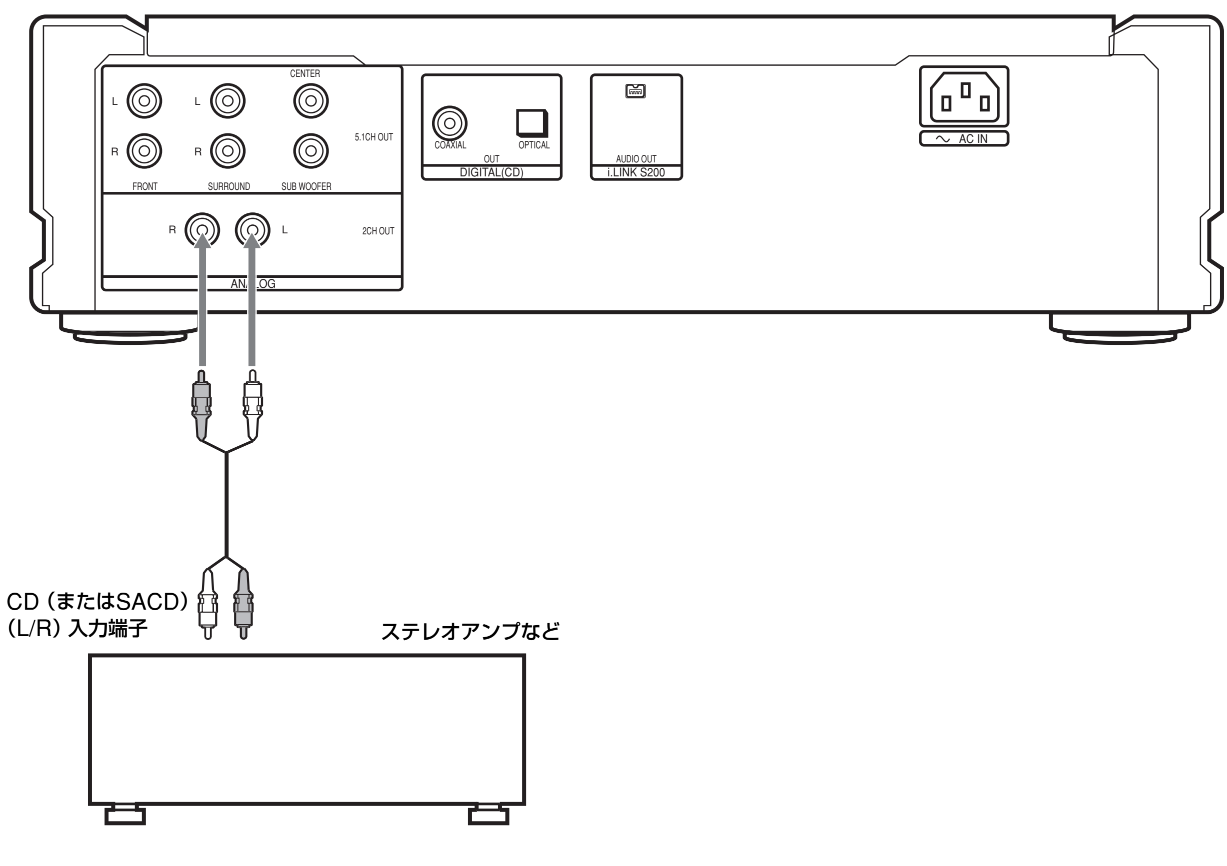


ご注意

マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスクを再生中、2CH OUT（L、R）端子には5.1CH OUTのFRONT（L、R）と同じ信号が出力されます。（マルチチャンネルの2チャンネルダウンミックス信号は出力されません。）

2CH OUT端子からの出力について

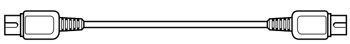
CDおよび2チャンネルスーパーオーディオCDディスクを再生する場合、ステレオ信号がFRONT、SURROUND、CENTER/SUB WOOFERの各D/Aコンバーターに入力されます。そしてその信号はD/A変換後合成され、2CH OUT端子から出力されます。同一の信号を3つ合成する場合、理論的には信号は3倍、ノイズ成分は√3倍となりますのでS/Nの改善がはかれます。このように2CH OUTの信号は優れた音質を達成しています。しかしこのような回路構成のため、マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク再生時には上記の機能は働きません。2CH OUT端子からは、5.1CH OUTのFRONT（L、R）と同じ信号が出力されます（マルチチャンネル信号がダウンミックスされた信号は再生されません）。



i.LINKを使って接続する

SCD-XA9000ESとTA-DA9000ESを、付属のi.LINKケーブルでつなぎます。

i.LINKケーブル（付属）



ご注意

- 本機のi.LINK接続はTA-DA9000ESにのみ対応しています。本機はi.LINKの機能を一部制限しており、TA-DA9000ES以外とi.LINK接続した場合は正常に動作しないことがあります。
- i.LINK端子に金属が触れるとショートし、接続した機器にトラブルが生じる場合があります。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は誤動作の原因となります。
- 本機が対応している信号については、32ページをご覧ください。
- i.LINK対応機器の中には、コピー・プロテクション技術に対応し、暗号化した信号を扱う機器があります。本機はDTLAのコピー・プロテクション技術（Revision 1.2）に対応しています。
- 表示窓の「i.LINK」は本機がi.LINK 端子から音声信号を出力できる状態を表しています。

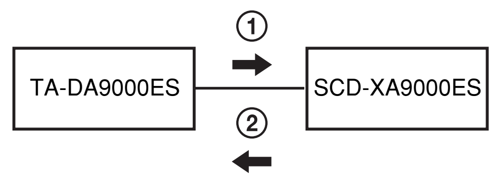
「LINC（リンク）する」とは？

i.LINK対応機器間をi.LINKケーブルで接続しただけでは、音楽信号の送受信をすることはできません。音楽信号を送信する機器と受信する機器をLINC（Logical INterface Connection）する必要があります。「LINCする」とは、送受信を行う機器間に「音楽信号の論理的な経路を確立する」ことを意味します。この論理経路には識別番号があり、送信側はこの経路に音楽信号を出力し、受信側はこの経路の音楽信号を入力します。送受信を行う機器は、この経路を互いに知っている必要があります。 LINCするとき、i.LINK対応機器間で、以下のようなやりとりが行われます。

例

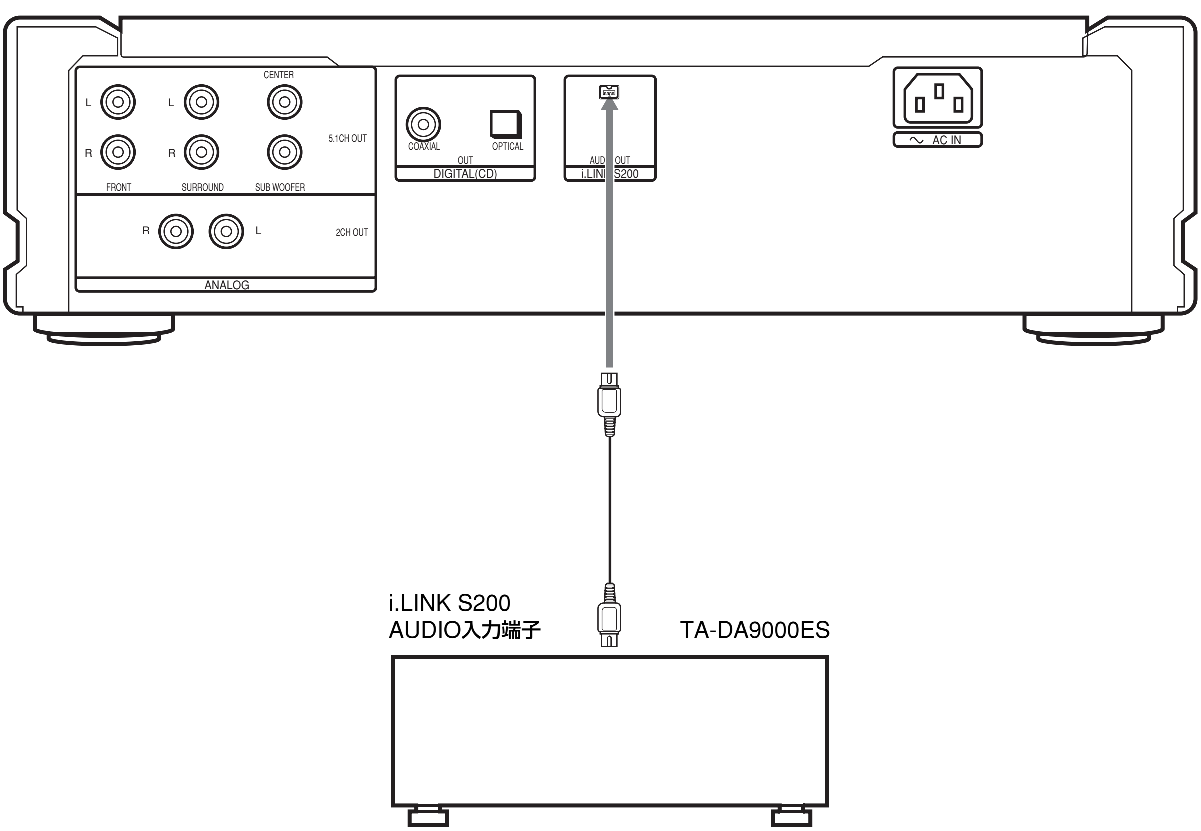
TA-DA9000ESからSCD-XA9000ESをLINCするとき

①SCD-XA9000ESに対して、「これから、音楽信号の論理的な経路を確立してください」と、音楽信号の経路の識別情報を送る。



②「了解です」とSCD-XA9000ESが信号を送る。

以上のようなやりとりが行われ、LINCが完了して初めて、i.LINK対応機器間で音楽信号を送受信することができるようになります。



高音質で聞く（H.A.T.S.（High quality digital Audio Transmission System）機能）

TA-DA9000ESのH.A.T.S.設定を「On」にすると、TA-DA9000ES側でi.LINKから入力されたデジタルオーディオ信号をバッファに蓄え、精度の高いタイミングでバッファから信号を読み出しアナログ信号に変換します。このため、デジタルオーディオ信号転送時に生じるジッター（信号を読み取るタイミングの時間軸のゆれ）の影響を受けず、音質が良くなります。この機能を使っているときはデジタル音声信号がTA-DA9000ESに入力されると、TA-DA9000ESの表示窓に「H.A.T.S.」が点灯します。この機能を使わないときはTA-DA9000ESのH.A.T.S.設定を「Off」にします。詳しくはTA-DA9000ESの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- H.A.T.S.機能の性質により、再生機の操作（例：再生ボタンを押す、停止ボタンを押す、一時停止ボタンを押す、など）をしてから音が変わるまで少し時間の遅れがあります。また、CDとスーパーオーディオCDとでは遅れる時間が異なる場合があります。
- H.A.T.S.機能は、H.A.T.S.機能に対応する機器にのみ働きます。
- H.A.T.S.機能は、1台のTA-DA9000ESから選ばれているときに働きます。これは、プログラムソースからのデジタル音声信号の転送速度をTA-DA9000ESが調節するのに対して、i.LINKの経路内では、適切な信号転送のため、ある機器からのオーディオ信号を受け取る機器は1つだけ、と決まっているからです。

著作権について

著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピー・プロテクション技術が採用されています。
この技術のひとつは、DTLA（The Digital Transmission Licensing Administrator）というデジタル伝送における著作権保護技術の管理運用団体から許可を受けているものです。このDTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像／音声／データにおいて、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。
また、DTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、i.LINKでのデジタルの映像／音声／データのやりとりができない場合があります。

- i.LINKは、IEEE1394-1995とIEEE1394a-2000を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ“ ”は、ソニー株式会社の商標です。

DIGITAL（CD）OUT OPTICAL端子に接続する

DIGITAL（CD）OUT OPTICAL端子を使うときは、端子のキャップを抜き、光デジタル接続コードのプラグをカチッと音がするまでまっすぐに差し込みます。

光デジタル接続コード（別売り）



ご注意

DIGITAL（CD）OUT端子からはCDのときのみ出力されます。スーパーオーディオCDのときは出力されません。

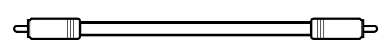
i.LINKランプが点灯しているときは

DIGITAL（CD）OUT端子からは出力されません。

DIGITAL（CD）OUT COAXIAL端子に接続する

同軸デジタル入力端子のある機器と接続するときは、同軸デジタル接続コードを使います。

同軸デジタル接続コード（別売り）



ご注意

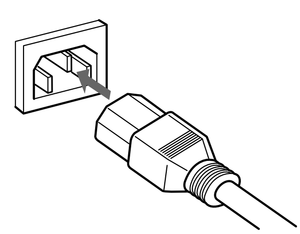
DIGITAL（CD）OUT端子からはCDのときのみ出力されます。スーパーオーディオCDのときは出力されません。

i.LINKランプが点灯しているときは

DIGITAL（CD）OUT端子からは出力されません。

電源コードをつなぐ

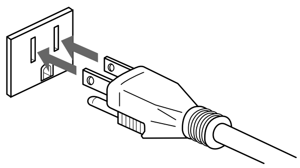
付属の電源コードを本体のAC IN端子につないでから、壁のコンセントにつなぎます。



電源コードについて

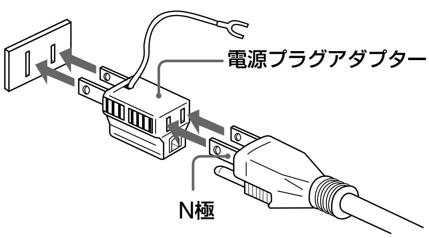
本機は、3極プラグの電源コードになっています。3極プラグがお使いになれないときは、お使いになるコンセントの形状に合わせて、付属の電源プラグアダプターか市販のプラグアダプターをお使いください。

3極コンセントの場合



2極コンセントの場合

- **コンセントの差し込み口に長短の違いがある場合：**
  ふたつのブレードの幅が違う付属の電源プラグアダプターをお使いください。



- **コンセントの差し込み口が同じ長さの場合：**
  市販のプラグアダプターをお使いください。
  このとき市販の検電ドライバーなどを使って差し込み穴の極性をチェックできます。検電ドライバーを差し込んでネオンランプが点灯しない方がアース側です。上の図の「N側」のブレードをアース側に差し込みます。

ノイズ（ハム）が出るときは

アース回路の電位差が原因となっている場合があります*。このときは、付属の電源プラグアダプターを使ったうえで、アース線をどこにも接続しないでお使いください。

* 家庭用の電源コンセントのアース（グラウンド）は通常安全アース用ですが、コンセントごとに微小な電位差がある場合があります。そのため付属の3極コードをそのまま使うと、かえって音質が劣化したりブーンというハムノイズが出ることがあります。

出力端子に関するご注意

本機は「トライ・パワード・D／Aコンバーター・システム」と「マルチ・チャンネル・マネジメント機能」を搭載しています。そのため、各モードでの出力は下記のようになります。

再生ソース	マルチ・チャンネル・マネジメントの設定	2CH OUT端子	5.1CH OUT端子	ヘッドホン端子	DIGITAL (CD) OUT端子
CD	機能しません	○*1	○	○*1	○*3
スーパーオーディオCD（2ch）	Direct	○*1	○	○*1	x
	2ch + SW	○	○	○	x
スーパーオーディオCD（マルチ）	全ての再生モードで共通です	○*2	○	○*2	x

*1 トライ・パワード・D/Aコンバーターによる出力。
*2 ANALOG 5.1CH OUTのFRONT（L、R）と同じ信号が出力されます。
*3「D. OUTPUT」が「ON」に設定されている場合のみ（24ページ）。

ご注意

トライ・パワード・D/Aコンバーター・システムは、2CH OUT端子から出力される2CH信号に対してのみ機能します。

i.LINKランプが点灯しているときは

- i.LINK S200 AUDIO OUT端子以外のすべての端子（ANALOG 2CH OUT端子、ANALOG 5.1CH OUT端子、ヘッドホン端子およびDIGITAL（CD）OUT 端子）からは音声が出力されません。
- マルチ・チャンネル・マネジメント機能は働きません。

i.LINKランプが点灯しているときにヘッドホンを使いたいときは

ヘッドホンを本機ではなく、アンプ側のヘッドホン端子に接続してください。

各部の名称とはたらき

この章では、本体前面と後面、付属のリモコンの各部の名称とはたらきの簡単な説明をしています。
また、表示窓の見かたについての説明もしています。
各部のはたらきについて詳しくは、名称のあとの（　）内のページをご覧ください。

本体前面

パワー
1 **POWERスイッチ**（16ページ）
本機の電源をオンにします。

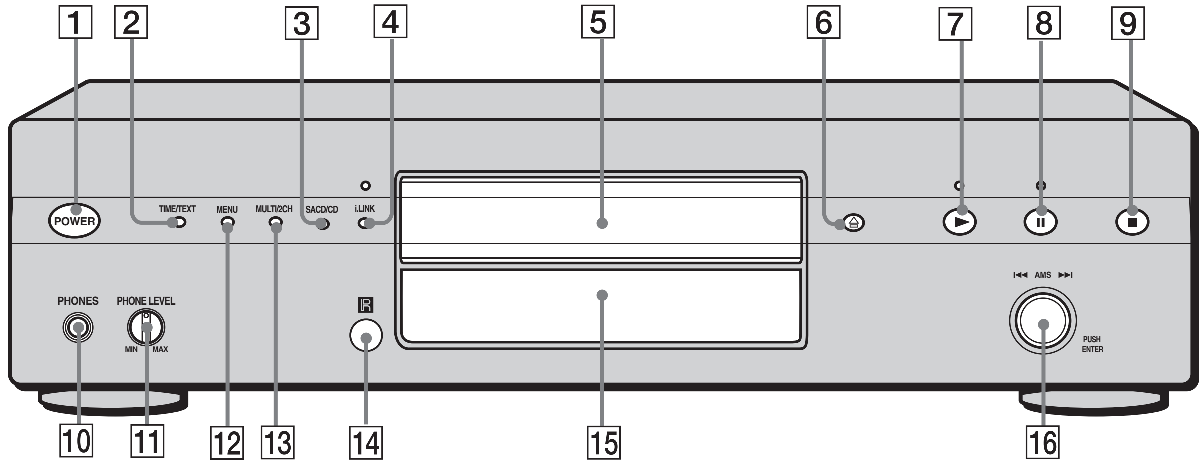
タイム　テキスト
2 **TIME/TEXTボタン**（17ページ）
押すたびに、曲の再生時間やCD全体の残り時間、TEXT情報を表示します。

3 **SACD/CDボタン**（16ページ）
ハイブリッドディスクを再生するときに、HDレイヤーとCDレイヤーを切り換えることができます。

4 **i.LINKボタン**（16ページ）
押すたびに、i.LINK機能のオン／オフを切り換えることができます。

i.LINKランプ（16ページ）
i.LINK機能の使用中に点灯します。

5 **ディスクトレイ**（16ページ）
開閉は⏏ボタンで行ってください。



6 **⏏ボタン**（16ページ）
ディスクトレイを開閉します。

7 **►ボタン**（16ページ）
再生を始めます。
►ランプ
再生中に点灯します。

8 **❚❚ボタン**（16ページ）
再生を一時停止します。
❚❚ランプ
一時停止中に点灯します。

9 **■ボタン**（16ページ）
再生を停止します。

10 **PHONES**（ホーンズ）**端子**
ヘッドホンをつなぎます。
マルチチャンネルスーパーオーディオCDを再生中、PHONES端子には5.1CH OUTのFRONT（L、R）と同じ信号が出力されます。

11 **PHONES**（ホーンズ）**LEVEL**（レベル）**つまみ**
ヘッドホンの音量を調節します。

12 **MENU**（メニュー）**ボタン**（15、24、25ページ）
メニュー項目を表示します。
また、メニュー項目の表示を終了し、通常画面に戻します。

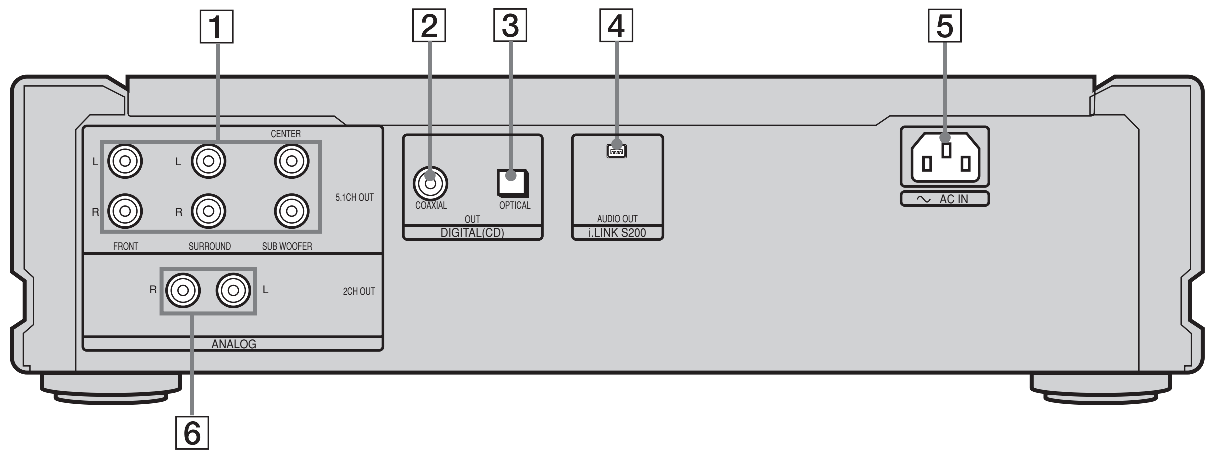
13 **MULTI**（マルチ）**/2CHボタン**（16ページ）
2チャンネル＋マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク（15ページ）再生時に、マルチチャンネル再生と2チャンネル再生を切り換えることができます。

14 **リモコン受光部**

15 **表示窓**（17ページ）
さまざまな情報を表示します。

16 **⏮AMS**（エーエムエス）**⏭ダイヤル（AMS:頭出し）**（20ページ）
ダイヤルを左に回すと前の曲、右に回すと次の曲の頭出しを行います。

本体後面



1 ANALOG 5.1CH OUT端子（5ページ）
オーディオ接続コードで5.1CH入力対応の入力端子（マルチチャンネルアンプまたはAVアンプ）と接続します。

2 DIGITAL（CD）OUT COAXIAL端子（8ページ）
同軸デジタル接続コードで他の機器と接続します。

3 DIGITAL（CD）OUT OPTICAL端子（8ページ）
光デジタル接続コードで他の機器と接続します。

4 i.LINK S200 AUDIO OUT端子（7ページ）
i.LINKケーブルを用いてTA-DA9000ESと接続します。

5 AC IN（8ページ）
電源コードを接続します。

6 ANALOG 2CH OUT端子（6ページ）
オーディオ接続コードで他の機器（ステレオ／2チャンネル）と接続します。

ご注意

23のDIGITAL（CD）OUT端子からはCDのときのみ音声が出力されます。スーパーオーディオCDのときは音声が出力されません。

i.LINKランプが点灯しているときは

i.LINK S200 AUDIO OUT端子以外のすべての端子（ANALOG 2CH OUT端子、ANALOG 5.1CH OUT端子、ヘッドホン端子およびDIGITAL（CD）OUT 端子）からは音声が出力されません。

リモコン

1 **CONTINUEボタン**（22ページ）
シャッフルやプログラム再生中に押すと、ふつうの再生に戻ります。

SHUFFLEボタン（22ページ）
シャッフル再生になります。

PROGRAMボタン（23ページ）
プログラム再生になります。

2 **DISPLAY MODEボタン**（18ページ）
表示を消して再生することができます。

3 **TIME/TEXTボタン**（17ページ）
押すたびに、曲の再生時間やCD全体の残り時間、TEXT情報を表示します。

4 **数字ボタン**（20ページ）
ダイレクト選曲を行います。

5 **>10 ボタン**（20ページ）
曲番11以上を探すときに使います。

6 **REPEATボタン**（21ページ）
ディスクの全曲または1曲だけを繰り返して再生します。

7 **A↔Bボタン**（22ページ）
A-Bリピート再生を行います。

8 **▷ボタン**（16ページ）
再生を始めます。

❚❚ボタン（16ページ）
再生を一時停止します。

■ボタン（16ページ）
再生を停止します。

9 **AMS⏮/⏭（AMS:頭出し）ボタン**
（20ページ）
曲の頭出しを行います。

10 **◀◀/▶▶ボタン**（20ページ）
曲の中の聞きたい部分を探すときに使います。

11 **INDEX◢/◣ボタン**（20ページ）
インデックス付きディスクの場合にインデックスの付いた位置の頭出しをします。

12 **SACD/CDボタン**（16ページ）
押すたびに、「SACD」か「CD」が表示窓に表示されます。お聞きになるディスクの種類に合わせて切り換えます。

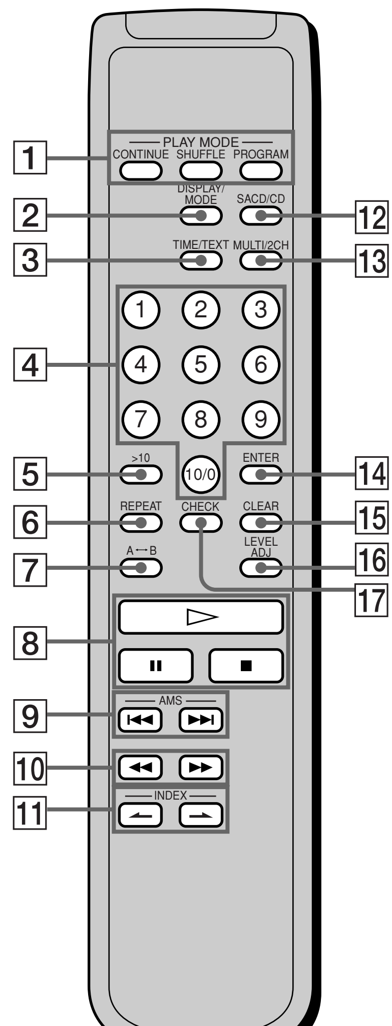
13 **MULTI/2CHボタン**（16ページ）
2チャンネル＋マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク（15ページ）再生時に、マルチチャンネル再生と2チャンネル再生を切り換えます。

14 **ENTERボタン**（27ページ）
選んだ項目を決定します。

15 **CLEARボタン**（23ページ）
プログラムされた曲を削除します。

16 **LEVEL ADJボタン**（27ページ）
マルチ・チャンネル・マネジメント機能（25ページ）使用時に出力バランスを調節します。

17 **CHECKボタン**（23ページ）
プログラムの順番を確認します。



ディスクを再生する

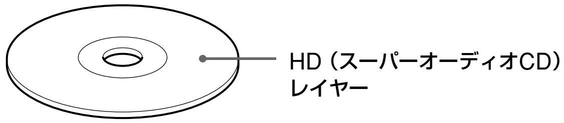
この章では、さまざまな再生のしかたを説明しています。

本機で再生できるディスクについて

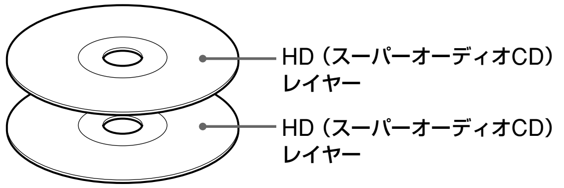
本機では次にあげるディスクの再生が可能です。ディスクの種類によってSACD/CDボタンや、MULTI/2CHボタンを押して再生したい場所を選びます。
なお、実際のディスクは以下の分類の、レイヤー構成とエリア構成の各々が組み合わさったものとなります。

ディスクのレイヤー（層）の構成による分類

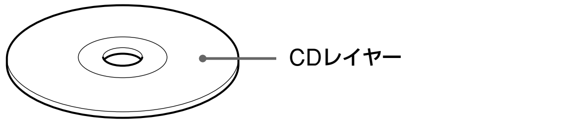
スーパーオーディオCD（シングルレイヤーディスク）
HD（ハイデンシティ）レイヤー（スーパーオーディオCD用の高密度信号層）単層のみのディスクです。
このディスクでは自動的にスーパーオーディオCDの再生が選ばれます。



スーパーオーディオCD（デュアルレイヤーディスク）
長時間再生を可能にした、HDレイヤーが2層になっているディスクです。
このディスクでは自動的にスーパーオーディオCDの再生が選ばれます。（2層構成ですが片面読み出しのため、ディスクを裏返す必要はありません。）

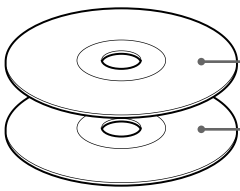


CD
現行フォーマットのCDディスクです。
このディスクでは自動的にCDの再生が選ばれます。



スーパーオーディオCD+CD（ハイブリッドディスク）

HDレイヤーとCDレイヤーとが2層になったディスクです。お聞きになりたい層は、SACD/CDボタンを押して選びます。（2層構成ですが片面読み出しのため、ディスクを裏返す必要はありません。）
また、CDレイヤーの内容は通常のCDプレーヤーでも再生できます。



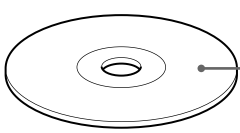
ディスク装着後最初に再生するレイヤー（HDレイヤー／CDレイヤー）を決めるには

1 MENUボタンを押す。
2 ⏮AMS⏭ダイヤルを回して、「SACD/CD SEL」を選ぶ。
3 ⏮AMS⏭ダイヤルを押す。
現在の設定が表示されます。
4 ⏮AMS⏭ダイヤルを回して、再生したいエリアを選んで⏮AMS⏭ダイヤルを押す。

スーパーオーディオCDディスクのチャンネルのエリア構成による分類

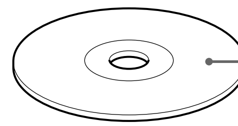
2チャンネルスーパーオーディオCDディスク

スーパーオーディオCDのHDレイヤーに2チャンネルのエリアのみが記録されているディスクです。
このディスクでは自動的に2チャンネルのエリアの再生が選ばれます。



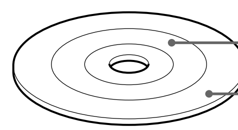
マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク

スーパーオーディオCDのHDレイヤーにマルチチャンネルのエリアのみが記録されているディスクです。
このディスクでは自動的にマルチチャンネルのエリアの再生が選ばれます。



2チャンネル＋マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク

スーパーオーディオCDのHDレイヤーに2チャンネルのエリアとマルチチャンネルのエリアの両方が記録されているディスクです。
お聞きになりたいエリアは、MULTI/2CHボタンを押して選びます。



ディスク装着後最初に再生するエリア（マルチ／2CH）を決めるには

1 MENUボタンを押す。
2 ⏮AMS⏭ダイヤルを回して、「M/2CH SELECT」を選ぶ。
3 ⏮AMS⏭ダイヤルを押す。
現在の設定が表示されます。
4 ⏮AMS⏭ダイヤルを回して、再生したいエリアを選んで⏮AMS⏭ダイヤルを押す。

本機で再生できないディスクについて

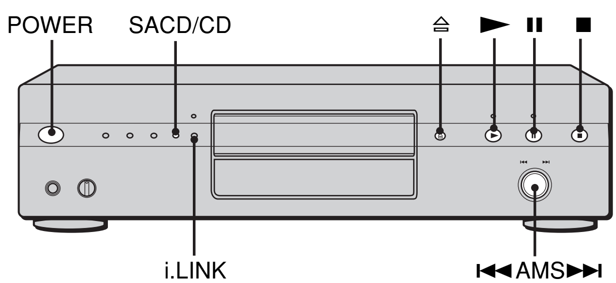
以下のディスクは本機では再生できません。
エラーメッセージ「TOC Error」や「No Disc」が表示されたり、再生しても音が出なかったりします。

- CD-ROM
- DVD

など

再生する

ここでは、ふつうの再生のしかたと再生中の基本操作について説明します。
i.LINKケーブルをつないでいるときは（7ページ）、i.LINK機能をオンにして高音質な音楽を再生できます。



1 アンプの電源を入れる。アンプのボリュームを最小にする。

2 アンプの入力切り換えで本機を接続している機器のファンクションを選ぶ。

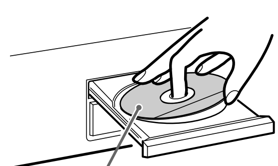
3 本機のPOWERスイッチを押して電源を入れる。

4 i.LINK機能のオン／オフを切り換える。

ANALOG OUT端子、DIGITAL（CD）OUT端子、PHONES端子からの音を聞くとき（i.LINK機能オフ）
i.LINKボタンを押して、i.LINKランプを消灯させます。

i.LINK S200 AUDIO OUT端子からの音を聞くとき（i.LINK機能オン）
i.LINKボタンを押して、i.LINKランプを点灯させます。

5 ≙ボタンを押してディスクトレイを開け、ディスクを置く。



6 ►ボタンを押す。
1曲目から再生が始まります。
途中の曲から再生を始めたいときは、►ボタンを押す前にI◄◄ AMS►►Iダイヤルを回し、曲番を選んでおいてください。

7 アンプで音量を調節する。

再生中の基本操作

操作	使うボタン
再生を止める	■ボタン
再生を一時停止する	IIボタン
一時停止した再生を再開する	IIボタンまたは►ボタン
1曲先へ進む	I◄◄ AMS►►Iダイヤルを右に回す
再生中の曲の頭または1曲前に戻る	I◄◄ AMS►►Iダイヤルを左に回す
ディスクを取り出す	≙ボタン

ディスクが入っているときに電源を入れると
自動的に再生が始まります。市販のタイマーと組み合わせると、好きな時間に再生を始めることができます。

ハイブリッドディスク（15ページ）再生時に聞きたいレイヤーを切り換えるには
SACD/CDボタンを押して「SACD」か「CD」を選んでください。

2チャンネル＋マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク（15ページ）再生時に聞きたいエリアを切り換えるには
MULTI/2CHボタンを押して「MULTI CH」か「2CH」を選んでください。

ご注意
- 再生時には、ボリュームを最小の状態から徐々にあげてください。本機で再生される音楽信号には可聴帯域外の成分が含まれており、スピーカーや耳にダメージを与えることがあります。
- 再生するエリアまたはレイヤーをプログラムモード時に切り換えると、プログラムされたトラックはクリアされます。
- 再生中にエリアまたはレイヤーを切り換えると、同じ場所から再生されるのではなく、同一トラックの頭から再生されます。ただし、ディスクによっては1曲目から再生されます。

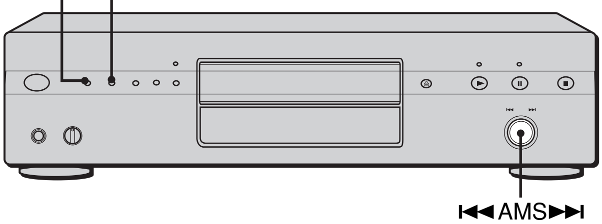
i.LINK機能を使って再生するときのご注意

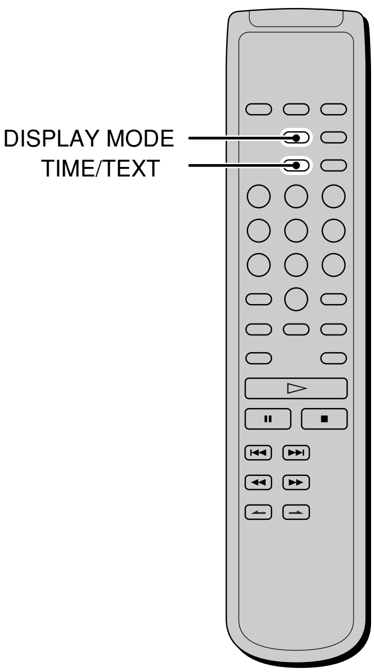
i.LINK機能を使って再生するときは、i.LINKボタンを押して、i.LINKランプを点灯させます。
i.LINK機能については、TA-DA9000ESに付属の取扱説明書も併せてご覧ください。
- 相手機器のi.LINK機能が準備されていないときに（例：TA-DA9000ESの表示窓に「i.LINK Connecting」と表示される）►ボタンを押すと、曲の頭が切れる場合があります。
- i.LINK機能をオンまたはオフに切り換えるときは、ディスクトレイを閉じた状態で操作してください。また、再生中に切り換えるときは、■ボタンを押して再生を止めてから操作してください。

i.LINKランプが点灯しているときは
- i.LINK S200 AUDO OUT端子以外のすべての端子（ANALOG 2CH OUT端子、ANALOG 5.1CH OUT端子、ヘッドホン端子およびDIGITAL（CD）OUT 端子）からは音声が出力されません。
- 「D. FILTER」、「D. OUTPUT」、「2CH SPK MODE」、「MCH SPK MODE」、「LEVEL ADJUST」および「SPK DISTANCE」のメニュー操作は無効になります。

表示窓の見かた

表示窓には、ディスクや再生中の曲に関するさまざまな情報が表示されます。本機の状態によって、表示される情報は変わります。

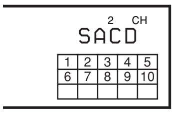




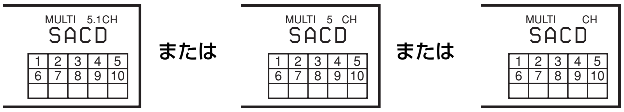
ディスク装着時の表示

ディスクの種類によって以下のように表示されます。

2チャンネルスーパーオーディオCDディスク



マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク

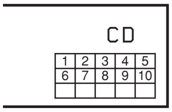


5.1チャンネルスーパーオーディオCDディスク再生中

5チャンネルスーパーオーディオCDディスク再生中

その他のマルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク再生中または停止中

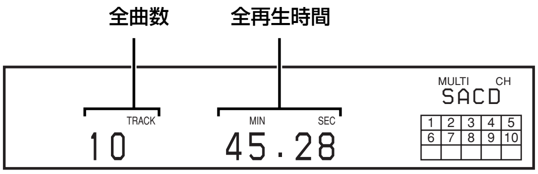
CDディスク



停止中の表示

TIME/TEXTボタンを押す。

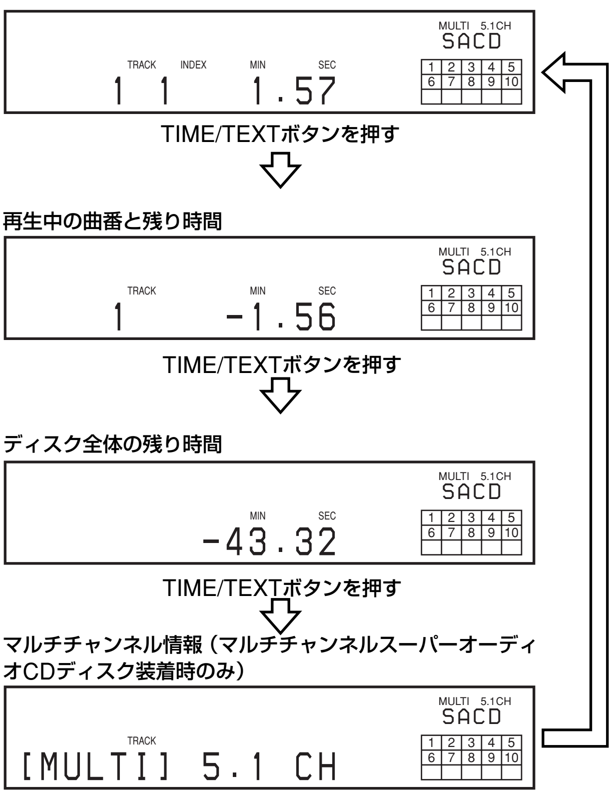
ディスクの全曲数や全再生時間が表示されます。



再生中の表示

TIME/TEXTボタンを押す。
押すたびに、再生中の曲番と経過時間、残り時間、ディスク全体の残り時間が表示されます。
マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク装着時は、通常表示の前にマルチチャンネル情報を表示します。

再生中の曲番と経過時間（通常表示）



表示を消す

再生中にDISPLAY MODEボタンを押すたびに、表示がついたり消えたりします。
ただし、表示が消えるのは再生中のみで、再生を止めたり、一時停止したりすると表示がつきます。再び再生を始めると表示は消えます。
再生を始める前に、DISPLAY MODEボタンを押すと、「Display Off」が表示され、もう１度押すと、「Display On」が表示されます。

TEXTの情報を見る

音楽信号の他に、ディスク名やアーティスト名などの情報を記録させたものがTEXT付きディスクです。本機ではTEXT情報として、ディスク名やアーティスト名、再生中の曲名を見ることができます。
TEXT付きディスクを入れると、「TEXT」が表示されます。
多言語で情報が記録されているTEXT付きディスクの場合は、「TEXT」と「MULTI」が表示されます。他の言語で情報を見たいときには「TEXTの情報を他の言語で見る」（19ページ）をご覧ください。

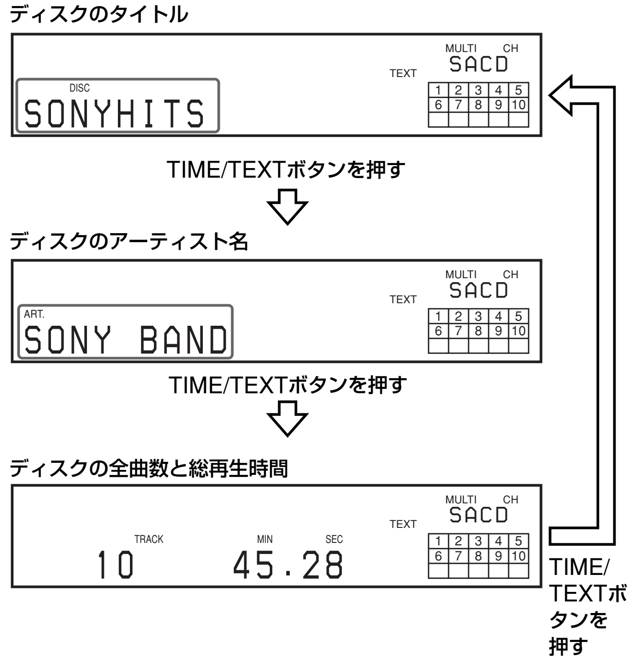
ご注意
本機で表示できるのは英数字のみです。日本語は表示されません。

停止中のTEXT表示

TIME/TEXTボタンを押す。
押すたびに、ディスク名またはアーティスト名が表示されます。アーティスト名の表示のときは「ART.」と表示されます。

- 停止中の表示

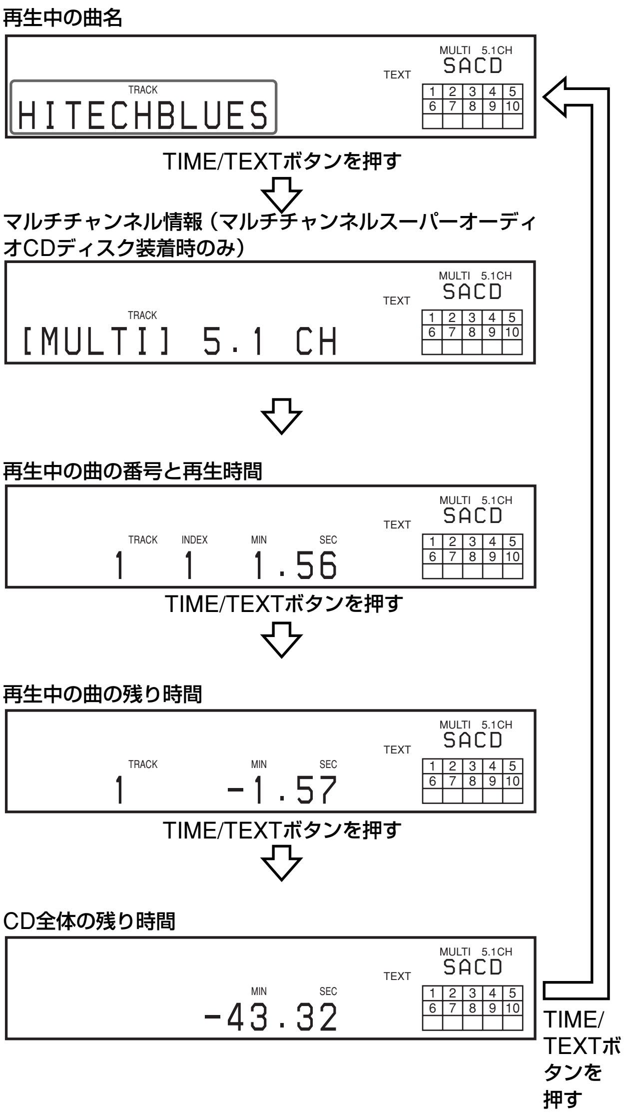
ディスクのタイトル



再生中のTEXT表示

再生中の曲名が表示されます。
TEXTの情報が15文字以上のときは、1度スクロールし、その後は最初の14文字が表示されます。
マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク装着時は、再生中の曲の番号と再生時間の表示の前にマルチチャンネル情報を表示します。

• **再生中の表示**



ご注意

- ディスクによっては、表示できない文字があります。
- 本機はTEXT情報のうち、ディスク名やアーティスト名、曲名のみを表示します。その他のTEXT情報は表示できません。

TEXTの情報を他の言語で見る

お手持ちのTEXT付きディスクが、複数の言語で記録されていれば、表示を切り換えることができます。このようなディスクを入れると、「TEXT」と「MULTI」が表示されます。この場合は以下の手順で言語を切り換えます。

1 **停止中、MENUボタンを押す。**

2 **⏮ AMS⏭ダイヤルを回して、「LANGUAGE」を選ぶ。**

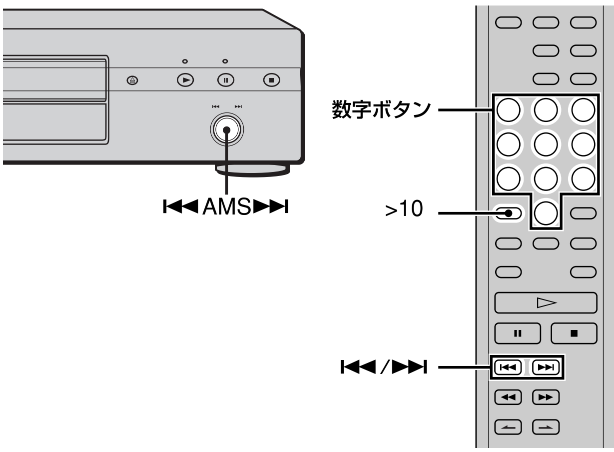
3 **⏮ AMS⏭ダイヤルを押す。**
現在選択されている言語名（English、French、Germanなど）が点滅します。
本機で表示することができない言語が記録されていた場合は、「Other Lang」が表示されます。

4 **⏮ AMS⏭ダイヤルを回して言語を選ぶ。**

5 **⏮ AMS⏭ダイヤルを押す。**
新たに選択した言語で情報が表示されます。

再生したい曲を探す

再生中または停止中に、次に再生したい曲を選んで頭出しすることができます。AMSとは、Automatic Music Sensor（オートマチック ミュージック センサー）の略です。



探しかた	操作のしかた
次の曲を頭出しする（AMS）	再生中、I◀◀ AMS▶▶Iダイヤルを右に回す。（リモコンでは、▶▶Iボタンを押す。）
再生中の曲または前の曲を頭出しする（AMS）	再生中、I◀◀ AMS▶▶Iダイヤルを左に回す。（リモコンでは、I◀◀ボタンを押す。）
曲番で直接選ぶ（ダイレクト選曲）	I◀◀ AMS▶▶Iダイヤルを回して聞きたい曲番を選ぶ。（リモコンでは、聞きたい曲まで、I◀◀/▶▶Iボタンを押す。）

ダイレクト選曲で探す

曲番を数字ボタンで入力する。

ダイレクト選曲で11曲目以降を入力するには

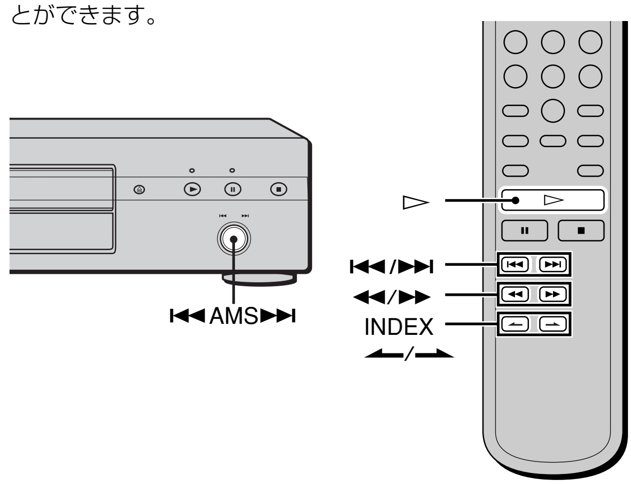
1 >10ボタンを押す。
2 数字ボタンを使って、10の位、1の位の順番で曲番を入力する。0を入力するときは10/0ボタンを押す。
例： 30曲目を選ぶとき　>10 → 3 → 10/0
100曲目を選ぶとき　>10 → >10 → 1 → 10/0 → 10/0

ご注意

総トラック数が100曲以下のときに>10を2回押すと、元の表示に戻ります。

再生したい部分を探す

再生中または一時停止中に、曲の中の聞きたい部分を選ぶことができます。



聞きながら探す（サーチ）

1 **再生中、◀◀/▶▶ボタンを押したままにする。**
再生音が断続的に聞こえます。

2 **聞きたい部分に近づいたら、ボタンをはなす。**
ふつうの再生にもどります。

時間表示を見ながら探す（高速サーチ）

1 **一時停止中、◀◀/▶▶ボタンを押したままにする。**
再生音は聞こえません。

2 **聞きたい部分になったら▷ボタンを押す。**
再生が始まります。

「Over!!」と表示されたときは

最後の曲の終わりまで進んでいます。◀◀ボタンを押してください。

ご注意

極端に短い曲が連続している部分は、正常にサーチできない場合があります。

インデックスを使って探す（インデックスサーチ）

再生中または一時停止中、INDEX⟶またはINDEX⟵ボタンを繰り返し押す。

INDEXとは？

聞きたい部分を見つけやすいように、1曲またはディスク全体をいくつかの部分に区切って番号を付けたものです。インデックス付きの市販のディスクには表示が付いています。
インデックスサーチはインデックス付きの市販のディスクでしかできません。

ディスクを再生する

再生開始時間を決めて探す（タイムサーチ）

1 **停止中に、⏮/⏭ボタンを押して、聞きたい曲を選ぶ。**

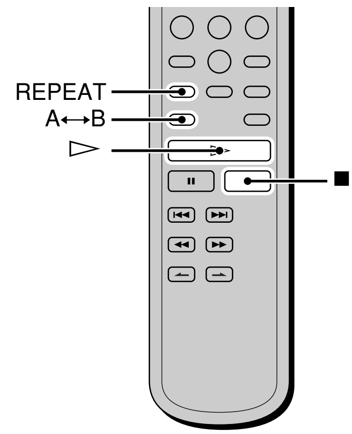
2 **◀◀/▶▶ボタンを押したまま、表示窓を見ながら、再生を開始する時間を決める。**
はじめに▶▶ボタンを押すと曲の頭から、◀◀ボタンを押すと曲の終わりから設定できます。



3 **▷ボタンを押す。**
タイムサーチが始まります。

繰り返し再生する

ディスクの全曲を繰り返し再生します。シャッフル再生（22ページ）やプログラム再生（23ページ）を選んだ状態でも、繰り返し再生できます。また、ある1曲だけを繰り返したり、1曲中のある範囲だけを繰り返すこともできます。



ご注意

全曲リピートと1曲リピートのどちらを選んでいたかは、本機の電源を切ったり、電源プラグを抜いたりしても記憶されています。ただし、A-Bリピートの設定は、本機の電源を切ったり、電源プラグを抜いたりすると消去されます。

全曲を繰り返す（全曲リピート）

REPEATボタンを1回押して、▷を押す。
全曲リピートが始まります。「Repeat」が表示され、全曲リピートが始まります。
選ばれている再生のしかたによって、繰り返しかたが変わります。

選ばれている再生	繰り返しかた
ふつうの再生（16ページ）	全曲を順番に再生する
シャッフル再生（22ページ）	繰り返すたびに曲順が変わる
プログラム再生（23ページ）	プログラムの曲順に再生する

全曲リピートを止めるには

■ボタンを押す。

ふつうの再生に戻すには

「Repeat」が消えるまで、REPEATボタンを繰り返し押す。

繰り返し再生する

1曲だけを繰り返す（1曲リピート）

繰り返したい曲の再生中に、「REPEAT 1」と表示されるまでREPEATボタンを繰り返し押す。
1曲リピートが始まります。

1曲リピートを止めるには
■ボタンを押す。

ふつうの再生に戻すには
「REPEAT 1」が消えるまで、REPEATボタンを繰り返し押す。

1曲中のある部分だけを繰り返す（A-Bリピート）

1曲中で聞きたい部分を指定し、そこだけを繰り返し聞くことができます。1曲の範囲を越えて指定することはできません。

1 **再生中に、繰り返したい部分の始点（A点）でA↔Bボタンを押す。**
「REPEAT」が点灯し、「A」が点滅します。

2 **そのまま再生を続けて（または▶▶ボタンを押して）繰り返したい部分の終点（B点）まで進み、A↔Bボタンを押す。**
「REPEAT A-B」が点灯し、A-Bリピートが始まります。

A-Bリピートを止めてふつうの再生に戻すには
REPEATボタンまたは■ボタンを押す。

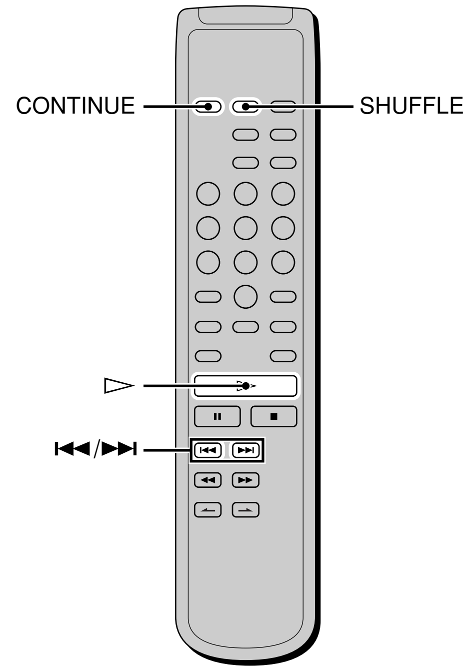
繰り返す部分を先に進めることができます。
今繰り返している部分の終点を始点に変え、新たに終点を指定します。
1 A-Bリピート中に、A↔Bボタンを押す。
今の終点が始点（A点）に変わります。
「REPEAT」が点灯し、「A」が点滅します。
2 新たに指定したい終点（B点）まで進み、A↔Bボタンを押す。
「REPEAT A-B」が点灯し、新たに指定した部分のA-Bリピートが始まります。

始点（A点）に戻したいときは
A-Bリピート中、▷ボタンを押します。

ディスクを再生する

ランダムに再生する（シャッフル再生）

順不同に全曲を1回ずつ再生します。



1 **停止中に、SHUFFLEボタンを押す。**

2 **▷ボタンを押す。**
シャッフル再生が始まります。
次に再生する曲が決まる間は、⇆ が表示されます。
全曲を1回ずつ再生し終わると停止します。

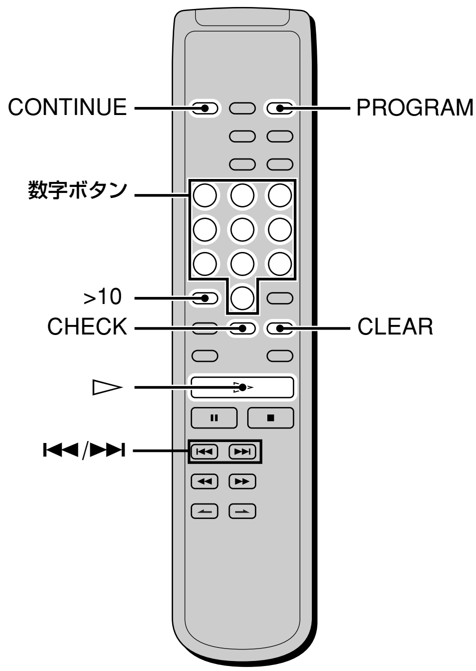
ふつうの再生に戻すには
CONTINUEボタンを押す。

次に再生する曲を頭出しできます。
⏮/⏭ボタンを押す。
⏭ボタンを押すと次に再生する曲を頭出しして、⏮ボタンを押すと再生中の曲の頭に戻ります。すでに再生が終わった曲には戻りません。

ご注意
シャッフル再生中に、スーパーオーディオCDの再生エリア（マルチ／2CH）またはレイヤー（HD／CD）（15ページ）を変更したときは、再度、順不同に全曲を1回ずつ再生します。

聞きたい曲を好きな順番で再生する（プログラム再生）

聞きたい曲だけをプログラムして再生できます。プログラムには32曲（または合計時間999分59秒）まで登録できます。



1 **停止中に、PROGRAMボタンを押す。**
「Program」が表示されます。

2 **数字ボタンを押して曲番を入力する。**

曲をプログラムし直すには
CLEARボタンを押してから、もう1度正しい曲番を入力する。

ディスクの11曲目以降を選ぶときは
>10ボタンを使う（20ページ）。

3 **手順2を繰り返して、聞きたい曲をすべてプログラムする。**
新しい曲をプログラムするたびに、プログラムの合計時間が表示されます。

4 **▷ボタンを押す。**
プログラムの再生が始まります。

ふつうの再生に戻すには

CONTINUEボタンを押す。

再生が終わっても、プログラムは残っています。
▷ボタンを押すと、プログラムの最初から再び再生します。再生を途中で止めても、プログラムは消えません。

ご注意
プログラムは次の場合に消えます。
－本機の電源を切ったとき
－電源プラグを抜いたとき
－≙ボタンを押したとき
－スーパーオーディオCD再生エリア（マルチ／2CH）またはレイヤー（HD／CD）を変更したとき（15ページ）

プログラムの内容を確認する

再生を始める前または再生中、CHECKボタンを押す。
押すたびに、プログラムの曲順で、曲番が表示されます。再生中は、再生中の曲番から表示されます。

プログラムの内容を変更する

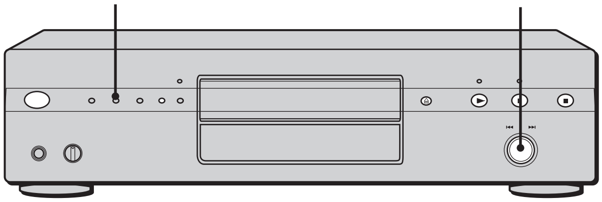
再生を始める前、プログラムの内容を変更できます。

変更のしかた	操作のしかた
途中の曲を消す	1 消したい曲が表示されるまで、CHECKボタンを押す。 2 CLEARボタンを押す。
最後の曲から消す	CLEARボタン押す。 押すたびに、プログラムした最後の曲から消える。
最後に追加する	⏮/⏭ボタンを押して追加したい曲を選び、PROGRAMボタンを押す。あるいは、追加したい曲番の数字ボタンを押す。
すべてを消す	「Prog CLEAR」と表示されるまで、CLEARボタンまたは■ボタンを押し続ける（約2秒間）。

デジタルフィルターを切り換えてCDを聞く

本機には折り返しノイズを除去するために、デジタルフィルターが用いられています。このデジタルフィルターの遮断特性を変えることによって、音質を変化させることができます。本機では、「STANDARD」と「OPTION」の2種類から選ぶことができます（出荷時は「STANDARD」です）。

i.LINKランプが点灯しているときは機能しません。



1 MENUボタンを押す。

2 ⏮AMS⏭ダイヤルを回して、「D. FILTER」を選ぶ。

3 ⏮AMS⏭ダイヤルを押す。

4 ⏮AMS⏭ダイヤルを回して、「STANDARD」または「OPTION」を選ぶ。

5 ⏮AMS⏭ダイヤルを押す。
「OPTION」を選択した場合は「FILTER」が点灯します。

デジタルフィルターの特長

STANDARD
情報量が多く、広いレンジ感と広い空間表現が特長です。

OPTION
なめらかなタッチでエネルギー感があり、音像定位が明瞭なのが特長です。

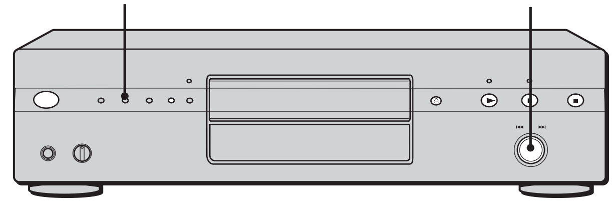
ご注意

- スーパーオーディオCDのディスクが入っているときは、操作できません。
- 組み合わせる機器やディスクによっては、効果がわかりにくい場合があります。

デジタル出力のオン／オフを切り換える

本機では、デジタル出力のオン／オフの切り換えができます。同軸（COAXIAL）または光（OPTICAL）のいずれかの端子を使用する場合はオン（D.OUT ON）を選択します（出荷時はオンです）。

i.LINKランプが点灯しているときは機能しません。



1 MENUボタンを押す。

2 ⏮AMS⏭ダイヤルを回して、「D. OUTPUT」を選ぶ。

3 ⏮AMS⏭ダイヤルを押す。

4 ⏮AMS⏭ダイヤルを回して、「D.OUT ON」または「D.OUT OFF」を選ぶ。

5 ⏮AMS⏭ダイヤルを押す。

ご注意

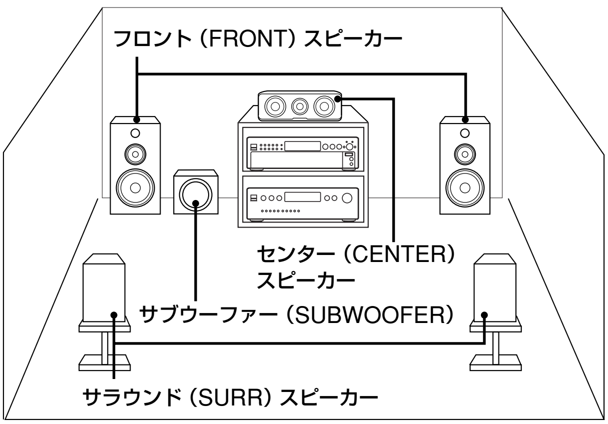
スーパーオーディオCDディスクが入っているときは、操作できません。また、本設定にかかわりなく、スーパーオーディオCDディスク再生時は、DIGITAL（CD）OUT端子からは音声が出力されません。

マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスクを聞く
(マルチ・チャンネル・マネジメント機能)

本機はマルチ・チャンネル・マネジメント機能を搭載しています。マルチ・チャンネル機能とはプレーヤー内蔵のDSD-DSPにより、スピーカーの配置やサイズに合わせたスーパーオーディオCDの再生環境を設定する機能です。

i.LINKランプが点灯しているときは機能しません。

スピーカー配置の例

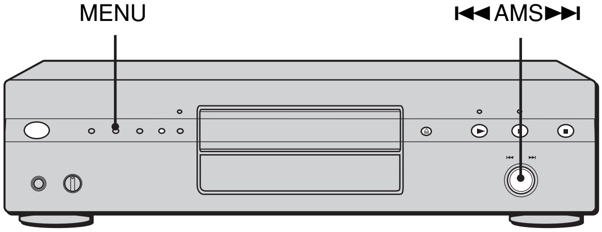


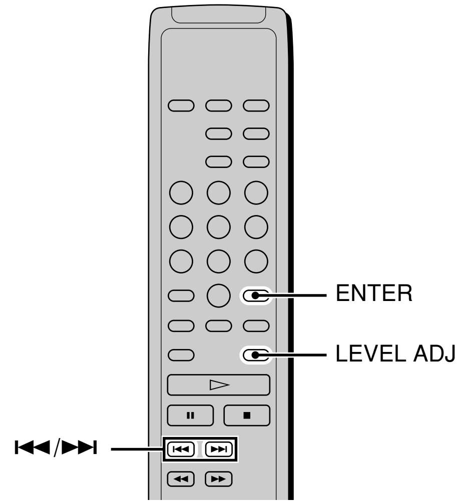
マネジメント機能を設定するには

1 あらかじめプリセットされている再生モードを選ぶ（2チャンネル再生モード、マルチチャンネル再生モードをそれぞれ設定します）。
2 各チャンネルの出力バランスを調節する（マルチチャンネル再生モードのみ）。

ご注意

- マルチ・チャンネル・マネジメント機能は、スーパーオーディオCDディスク再生時のみ有効です。
- 選択された再生モードによっては、出力バランス調節ができないものがあります。





2チャンネル再生モードを選ぶ

1 MENUボタンを押す。

2 **⏮◀◀AMS▶▶⏭ダイヤルを回して、「2CH SPK MODE」を選ぶ。**

3 **⏮◀◀AMS▶▶⏭ダイヤルを押す。**
再生モードが表示されます。

再生モード	フロントスピーカー	サブウーファー
2CH Direct	それぞれのチャンネルの音声信号が直接各スピーカーから出力されます。サブウーファーからは出力されません。	
2CH + SW	有	有

4 **⏮◀◀AMS▶▶⏭ダイヤルを回して、再生モードを選ぶ。**

5 **⏮◀◀AMS▶▶⏭ダイヤルを押す。**

ご注意

2チャンネル再生モードの選択は、CDディスクまたはマルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク装着時にはできません。2チャンネルスーパーオーディオCDディスク装着時、ディスクトレイが開いている状態、またはディスク無しの状態で行ってください。

マルチチャンネル再生モードを選ぶ

1 MENUボタンを押す。

2 **⏮◀◀AMS▶▶⏭ダイヤルを回して、「MCH SPK MODE」を選ぶ。**

ディスクを再生する

3 ⏮◀◀ AMS▶▶⏭ダイヤルを押す。
再生モードが表示されます。

再生モード	フロントスピーカー	センタースピーカー	サラウンドスピーカー	サブウーファー
MCH Direct	それぞれのチャンネルの音声信号が直接各スピーカーから出力されます。			
5 – Large + SW	Large	Large	Large	有
5 – Large	Large	Large	Large	無
5 – Small + SW	Small	Small	Small	有
FRT – Large + SW	Large	Small	Small	有
FRT – Large	Large	Small	Small	無
No – CNTR + SW	Large	無	Large	有
No – CNTR	Large	無	Large	無

「Large」「Small」とは?
低域を十分に再生できる大きなスピーカーを「Large」としています。たとえばサラウンドスピーカーを「Small」とする「5 – Small + SW」や「FRT – Large」などの設定にすると、サラウンドスピーカーの低域成分はサブウーファーまたはフロントスピーカーに配分されます。
通常は「MCH Direct」または5本すべてのスピーカーを「Large」とした「5 – Large + SW」や「5 – Large」の設定を選びます。
マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスクの再生時に、音が割れたりマルチチャンネル再生の効果が不十分に感じられるときは、該当するスピーカーの設定が「Small」になる設定を選びます。

4 ⏮◀◀ AMS▶▶⏭ダイヤルを回して、再生モードを選ぶ。

5 ⏮◀◀ AMS▶▶⏭ダイヤルを押す。
通常の表示に戻るにはMENUボタンを押します。

ご注意
- 「MCH Direct」を選択すると、バランス調節ができません。
- 「サブウーファー」を「無」に設定した場合、フロントスピーカーの設定は「Large」固定になります。
- LFE*信号を含んでいないトラックの再生時はサブウーファーから音声は出力されません（「MCH Direct」、「5 – Large + SW」または「No – CNTR + SW」が選択されているときなど）。LFE信号を含んでいないトラックの再生時にもサブウーファーから低域成分を出力させたい場合は、スピーカー設定を「Small」とした設定（「5 – Small + SW」または「FRT – Large + SW」）を選びます。
  * Low Frequency Enhancement（低域信号）（「.1 ch」と表示されています。）

各スピーカーの出力バランスを調節する

マルチ・チャンネル・マネジメント機能により、以下の調節ができます。

「CNTR BALANCE」
フロントスピーカーとセンタースピーカーの出力レベル相対バランス

「SURR BALANCE」
フロントスピーカーとサラウンドスピーカーの出力レベル相対バランス

「SW BALANCE」
フロントスピーカーとサブウーファーの出力レベル相対バランス

本機で出力バランスを調節する

1 MENUボタンを押す。

2 ⏮◀◀ AMS▶▶⏭ダイヤルを回して、「LEVEL ADJUST」を選ぶ。

3 ⏮◀◀ AMS▶▶⏭ダイヤルを押す。
再生中は手順6に進んでください。

4 ⏮◀◀ AMS▶▶⏭ダイヤルを回して、「TONE ON」を選ぶ。

5 ⏮◀◀ AMS▶▶⏭ダイヤルを押す。
各スピーカーから順番にテストトーンが出力されます。
表示窓には、テストトーンが出力されているスピーカーが表示されます。

6 ⏮◀◀ AMS▶▶⏭ダイヤルを回して、調節したい項目を選ぶ。
「CNTR BALANCE」、「SURR BALANCE」、「SW BALANCE」の中から選びます。

ご注意
マルチチャンネル再生モード（25ページ）で、サブウーファーを「無」に設定した場合、「SW BALANCE」は調節できません。センタースピーカー、サラウンドスピーカーについても同様です。

7 **|◀◀ AMS▶▶|ダイヤルを押す。**
出力バランス設定画面が表示されます。
停止中は選ばれているスピーカーからテストトーンが出力されます。

「SURR BALANCE」を選んでいる場合（停止中）
フロントスピーカーとサラウンドスピーカーからのみテストトーンが出力されます。



8 **|◀◀ AMS▶▶|ダイヤルを回して、出力バランスを調節する。**



9 **|◀◀ AMS▶▶|ダイヤルを押す。**
手順6の状態に戻ります。
他のスピーカー調節をする場合は、手順6から9を繰り返します。

10 **調節が終了したら、MENUボタンを押す。**
通常表示に戻ります。

リモコンで出力バランスを調節する

1 **LEVEL ADJボタンを押す。**
再生中は手順4に進んでください。

2 **|◀◀/▶▶|ボタンを繰り返し押して、「TONE ON」を選ぶ。**

3 **ENTERボタンを押す。**
各スピーカーから順番にテストトーンが出力されます。
表示窓には、テストトーンが出力されているスピーカーが表示されます。

4 **|◀◀/▶▶|ボタンを繰り返し押して、調節したい項目を選ぶ。**
「CNTR BALANCE」、「SURR BALANCE」、「SW BALANCE」の中から選びます。

ご注意
マルチチャンネル再生モード（25ページ）で、サブウーファーを「無」に設定した場合、「SW BALANCE」は調節できません。センタースピーカー、サラウンドスピーカーについても同様です。

5 **ENTERボタンを押す。**
出力バランス設定画面が表示されます。
停止中は選ばれているスピーカーからテストトーンが出力されます。

「SURR BALANCE」を選んでいる場合（停止中）
フロントスピーカーとサラウンドスピーカーからのみテストトーンが出力されます。



6 **|◀◀/▶▶|ボタンを繰り返し押して、出力バランスを調節する。**



7 **ENTERボタンを押す。**
手順4の状態に戻ります。
他のスピーカー調節をする場合は、手順4から7を繰り返します。

8 **調節が終了したら、LEVEL ADJボタンを押す。**
通常表示に戻ります。

ご注意
- マルチ・チャンネル・マネジメント機能で、「2CH Direct」、「MCH Direct」以外の再生モードを選択すると、各スピーカーへの音の配分が変わるため、全体の音量が下がる場合があります。その場合は、アンプのボリュームで調節してください。
- 「MCH Direct」を選択すると、バランス調節ができません。

スピーカーまでの距離を設定する

接続しているアンプに距離設定メニューがない場合は、本機でスピーカーの距離を調節することができます。接続しているアンプにスピーカー距離設定機能がある場合は、アンプ側で設定することをおすすめします。

ご注意

本機とアンプの両方でスピーカー距離を設定した場合は、両方が働くため、適切な音質を得られません。

FRT DIST.
リスニングポジションからフロントスピーカーまでの距離1.0メートルから7.0メートルのあいだで0.1メートルずつ調節できます。
スピーカーがリスニングポジションから等距離に設置されていない場合は、近い方に合わせてください。

SURR DIST.
リスニングポジションからサラウンドスピーカーまでの距離1.0メートルから7.0メートルのあいだで0.1メートルずつ調節できます。
スピーカーがリスニングポジションから等距離に設置されていない場合は、近い方に合わせてください。

CNTR DIST.
リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離1.0メートルから7.0メートルのあいだで0.1メートルずつ調節できます。

SUBW DIST.
リスニングポジションからサブウーファーまでの距離1.0メートルから7.0メートルのあいだで0.1メートルずつ調節できます。

DIST. UNIT
距離設定の単位（meter（メートル）かfeet（フィート））を選びます。

ご注意

下記のような場合にはスピーカー距離を設定できません。
－本機がCD情報（あるいはスーパーオーディオCDのCDエリア）を読み取っているとき
－本機がスーパーオーディオCDの2チャンネルエリアを読み取っているとき
－i.LINKランプが点灯しているとき

1 MENUボタンを押す。

2 |◀◀AMS▶▶|ダイヤルを回して、「SPK DISTANCE」を選ぶ。

3 |◀◀AMS▶▶|ダイヤルを押す。
再生中は手順6に進んでください。

4 |◀◀AMS▶▶|ダイヤルを回して、項目を選ぶ。
「FRT DIST.」、「SURR DIST.」、「CNTR DIST.」、「SUBW DIST.」から選んでください。

ご注意

マルチチャンネル再生モード（25ページ）でサブウーファーを「無」に設定すると、「SUBW DIST.」は設定できません（「Not In Use」と表示されます）。同様に、センタースピーカーを「無」に設定すると「CNTR DIST.」は設定できません。

5 |◀◀AMS▶▶|ダイヤルを押す。
表示窓に、スピーカー距離設定が表示されます。
例：「SURR DIST.」を選んだとき
（「DIST. UNIT」は「meter」）



6 |◀◀AMS▶▶|ダイヤルを回して、調節したい項目を選ぶ。



7 |◀◀AMS▶▶|ダイヤルを押す。
手順4に戻ります。さらに設定項目を追加したい場合は、手順4から7を繰り返してください。

8 設定を終えたあとにMENUボタンを押す。
通常の表示に戻ります。

距離設定の単位を選ぶには

上記の手順4で、「DIST. UNIT」を選びます。
|◀◀AMS▶▶|ダイヤルを回して、「meter」か「feet」*を選び、|◀◀AMS▶▶|ダイヤルを押します。

*「feet」を選択すると、3フィートから23フィートの範囲で1フィートずつ調節できます。

お買い上げ時の設定に戻すには

すべてのスピーカー距離を3メートル（10フィート）に設定します。

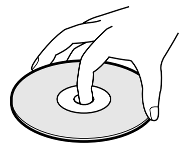
その他の情報

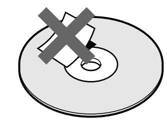
この章では、本機をご使用になる上での参考として役立つ情報を説明しています。

ディスクの取り扱い上のご注意

取り扱いかた

- 文字の書かれていない面（再生面）に手を触れないように持ちます。
- 紙やシールを貼らないでください。





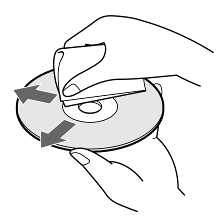
- 本機では円形ディスクのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状（星型、ハート型など）をしたディスクを使用しますと、本機の故障の原因となることがあります。
- 中古／レンタルCDなどでシールやのりが付着しているディスクは使用しないでください。

保存のしかた

- 直射日光が当たるところなど温度の高い所、湿度の高い所には置かないでください。
- ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねたり、立てかけておくと変形の原因になります。

お手入れのしかた

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽くふきます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布でふいた後、さらに乾いた布で水気をふき取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、ディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

CD-R/CD-RWの再生について

表面の傷やよごれ、録音状態、また録音機の相性などの理由でうまく再生されないことがあります。また、ファイナライズされていないCD-R/CD-RWは再生できません。

CD再生時のご注意

本製品は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本製品で再生・録音できない場合があります。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

i.LINK S200 AUDIO OUT端子から音が出ない。

接続したアンプの入力がi.LINKに設定されていますか？
➡ アンプの入力切り換えでi.LINKを選んでください。接続するアンプの取扱説明書もご覧ください。

i.LINK機能がオン（i.LINKランプ点灯）になっていますか？
➡ i.LINKボタンを押してi.LINK機能をオンにしてください。i.LINK機能がオンになっている時はi.LINKランプが点灯します（16ページ）。

i.LINKケーブルがはずれていませんか？
➡ 正しく接続しなおしてください。

付属のi.LINKケーブルを使用していますか？
➡ 市販のi.LINKケーブルを使用する場合は、3.5メートル以下で、S200に対応したi.LINKケーブルをお使いください。

対応している機器以外の機器を接続していませんか？
➡ 7ページをご覧ください。接続する機器の取扱説明書もご覧ください。

複数のi.LINK機器を接続していませんか？
➡ 複数のi.LINK機器を接続すると、音が出ない場合があります。

数秒間音が出ない。
➡ 著作権保護技術にもとづいて機器間で認証を行っているあいだ、音は出ません。

ANALOG OUT端子から音が出ない。

i.LINK機能がオン（i.LINKランプ点灯）になっていませんか？
➡ i.LINK機能がオン（i.LINKランプ点灯）になっていると、アナログ出力から音が出ません。i.LINKボタンを押してi.LINKランプを消してください（16ページ）。

接続したアンプの入力切り換えは正しく選択されていますか？
➡ アンプの入力切り換えで本機の音声が出るように選択してください。
➡ 接続したアンプの入力端子が正しいか確認してください。

接続コードが外れていませんか？
➡ 正しく接続しなおしてください。

DIGITAL（CD）OUT端子から音が出ない。

i.LINK機能がオン（i.LINKランプ点灯）になっていませんか？
➡ i.LINK機能がオン（i.LINKランプ点灯）になっていると、DIGITAL（CD）OUT端子から音が出ません。i.LINKボタンを押してランプを消してi.LINKランプを消してください（16ページ）。

スーパーオーディオCDを再生していませんか？
➡ スーパーオーディオCDの音声は、DIGITAL（CD）OUT端子から出力されません。

「D. OUTPUT」が、オフに設定されていませんか？
➡「D. OUTPUT」をオンにしてください（24ページ）。

SUB WOOFER端子から音が出ない。

サブウーファーからの出力がある再生モードを選んでいますか？
➡ 再生モードでSUB WOOFERを「有」に設定してください（26ページ）。

LFE信号を含むディスクを再生していますか？
➡ LFE信号を含んでいないトラックの再生時はマルチチャンネル再生モードで「5 – Small + SW」または「FRT – Large + SW」を選んでいるときのみ、SUB WOOFER端子から音が出ます（25ページ）。

ヘッドホンから音が出ない。

i.LINK機能がオン（i.LINKランプ点灯）になっていませんか？
➡ i.LINK機能がオン（i.LINKランプ点灯）になっていると、PHONES端子から音が出ません。アンプのヘッドホン端子をお使いください。

再生が始まらない。

正しいディスクが入っていますか？
➡ ディスクが入っているかどうか確認してください。
➡ ディスクを裏返しに入れていないか確認してください。文字の書いてある面を上にして、ディスクトレイにディスクを置いてください。
➡ ディスクがななめに入っている場合、ディスクを置きなおしてください。
➡ ディスクが汚れていないか確認してください（29ページ）。
➡ 本機で再生できないディスクを選んでいないか確認してください（15ページ）。

結露している。
➡ 結露していると、再生できないことがあります。ディスクを取り出して電源を入れたままの状態で約1時間放置し、再度電源を入れ直してから再生を始めてください。

リモコンで操作できない。

リモコンと本体のあいだに障害物がありませんか？
➡ 本機が見える位置からリモコン操作してください。

本機のリモコン受光部に向けて操作していますか？
➡ 本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

リモコンの乾電池が消耗していませんか？
➡ 新しい乾電池と交換してください。

メッセージ表示一覧

お使いになっているとき、状況により、英語のメッセージが出ます。日本語の意味は下の表の通りです。

メッセージ	エラーコード	原因
TOC ERROR	–	再生できないディスクを入れている。
BUS FULL	C78：15	i.LINKのバスが混み合っているため、本機から信号を出力できない。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。なお、補修用性能部品の保有期間は通商産業省の指導にもよるものです。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型式：SCD-XA9000ES
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日

主な仕様

SCD-XA9000ES

スーパーオーディオCD再生時

再生周波数範囲	2Hz～100kHz
周波数特性	2Hz～50kHz（–3dB）
ダイナミックレンジ	108 dB以上
全高調波ひずみ率	0.0012%以下
ワウ・フラッター	測定限界値（±0.001% W. PEAK）以下

CD再生時

周波数特性	2Hz～20kHz*
ダイナミックレンジ	100dB以上*
全高調波ひずみ率	0.0017%以下*
ワウ・フラッター	測定限界値（±0.001% W. PEAK）以下*

＊ EIAJ（日本電子機械工業会）の規格による測定値です。

出力端子

端子名	端子形状	出力レベル	負荷インピーダンス
ANALOG OUT	ピンジャック	2Vrms（50kΩ時）	10kΩ以上
DIGITAL (CD) OUT OPTICAL*	角形光コネクタージャック	–18dBm	（発光波長 660nm）
DIGITAL (CD) OUT COAXIAL*	同軸コネクタージャック	0.5Vp-p	75Ω
PHONES	ステレオ標準ジャック	10 mW（可変最大）	32Ω

＊ CDの音声のみ出力

i.LINK部

ピン数	4ピン
転送スピード	S200（最大データ転送速度 200 Mbps）
伝送プロトコル	A／Mトランスミッションプロトコル
信号フォーマット（出力）	スーパーオーディオCD（DSD PLAIN） 2チャンネルリニアPCM （IEC 60958-3） サンプリング周波数　44.1 kHz

DTLAのコピー・プロテクション技術（Revision 1.2）に対応

電源・その他

電源	AC 100V、50/60Hz
消費電力	28W
最大外形寸法	430×127×387mm （幅／高さ／奥行、最大突起部含む）
質量	約 16.2kg

付属品

4ページをご覧ください。

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません
- システムの本体キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません

索引

五十音順

よくあるお問い合わせ、解決方法などは
ホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ 0466-31-2511

修理相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ 0466-31-2531

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」＋「♯」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389 **受付時間** 月～金：9:00～20:00 土・日・祝日：9:00～17:00

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in Japan